

診療科目：腎・高血圧・膠原病内科

カテゴリー：必修科目、選択科目

一般目標：腎臓内科、血液浄化療法、膠原病関連の専門医制度の研修到達目標に沿って必要な症例を経験し、診断・治療に必要な専門的知識を習得することを目標とし、併せてチーム医療・一般内科全般に対する臨床医としての基本的な知識を確認し、習得する。

### 【個別目標】

#### 透析関連

- ・血液透析療法の原理を理解し、透析の穿刺介助ができる。
- ・透析液・水質管理基準に従い適切な管理ができる
- ・血液透析・血液濾過・血液透析濾過も方法と特徴を理解し適切な透析方法を選択し行うことができる
- ・血液浄化療法に関連した機器、薬剤、検査の選択、実施が行うことができる
- ・至摘透析の指標を基に評価することができる
- ・血液療法中の事故、院内感染対策、災害対策を理解し行うことができる
- ・バスキュラーアクセスの種類を理解し、トラブル時には適切な対処ができる
- ・腹膜透析の特性を理解し、腹膜透析液の適切な選択ができ行うことができる
- ・腹膜機能と透析量が評価でき至摘透析ができる、必要に応じて血液透析と腹膜透析の併用療法が選択できる
- ・アフェレーシスの種類と方法、合併症、保険適応疾患を理解し行うことができる
- ・急性腎障害の病因診断ができ、適切な急性血液浄化療法の選択実施が行える
- ・慢性腎不全の透析導入を基準に従い判断し、計画的な透析導入、必要に応じて緊急導入が行える
- ・透析導入時の問題点と合併症を理解し適切に導入することができる
- ・維持透析患者の合併症を理解し、適切に対処できる
- ・糖尿病、高齢者、手術、妊娠など特殊病態の患者に適切な透析が行える
- ・腎移植について適切な患者説明および患者選択、移植の準備ができる
- ・腎不全患者の薬物動態を十分理解し薬物の選択、使用ができる
- ・透析患者のQOLを評価し、適切な管理と社会復帰への援助ができる
- ・透析方法と倫理的問題（導入期、終末期の注意）を理解し対応ができる
- ・透析医療に必要な医療法規（障害者医療制度、厚生医療制度、介護保険制度）を理解し行う事ができる
- ・血液透析装置の組み立て及び操作ができる

## 腎臓病関連

- ・腎臓の形態、機能、病態生理を理解し診断することができる
- ・検尿異常の適切な診断、対処ができる
- ・浮腫、高血圧、貧血、腰・腹部痛（腎疝痛）の適切な診断、治療ができる
- ・糸球体疾患の診断が必要な検査を行い適切な診断、臨床・組織分類ができる
- ・低たんぱく食、塩分制限、カリウム制限食の適切な導入指導ができる
- ・腎生検の適応を判断でき、安全に生検を行うことができ病理組織学的診断ができる（光顕、免疫組織学、電顕）
- ・腎疾患の薬物治療、降圧薬を理解し、その作用機序を説明できる。
- ・体液・電解質異常、酸塩基平衡異常に対して診断し、適切な管理治療が行える
- ・ステロイド、免疫抑制薬、利尿薬、降圧薬（RA系抑制薬）を用い副作用を十分理解し適切な治療が行える
- ・急性腎不全、慢性腎不全に対して適切な診断、対処ができる
- ・遺伝性糸球体疾患を理解し対処ができる
- ・糖尿病など全身性疾患による腎障害を診断し適切な治療ができる
- ・高血圧及び腎血管障害の適切な診断、治療ができる
- ・腎尿路感染症の適切な診断、治療ができる
- ・先天性腎・尿路疾患の適切な診断、治療ができる
- ・腎尿路結石の適切な診断、治療ができる
- ・妊娠の腎に及ぼす影響を理解し、妊娠合併症（妊娠中毒症、妊娠誘発高血圧症など）に適切な対処ができる

## 膠原病関連

- ・自己免疫疾患の病態を十分理解し、関節炎、皮膚病変など膠原病関連身体所見を適切に診察し、診断に必要な検査を行い診断ができる
- ・ステロイド、免疫抑制薬、適切な治療が行える
- ・生物学的製剤の副作用を十分理解し、適応が適切に判断でき治療が行える
- ・感染予防に対して十分な知識を習得し、患者に感染予防について指導ができる
- ・日和見感染に対して適切な対処、治療が行える

**【指導原則、方法】**

1. 腎臓病、膠原病の入院患者を担当し、指導医とともに診療する過程で、基本的な治療方針の立て方を理解し、ならびに具体的な臨床技術を学ぶ。
2. 指導医の外来診療に参加し、診療補助を行う過程で、臨床治療を学ぶ。
3. 内科カンファレンス、臨床病理検討会に参加し、詳細な症例検討を通じて一般臨床を学ぶ。
4. 腎臓病教室に参加し、患者指導の方法を習得する。
5. 随時、宿直・日直に参加し、一般内科の研修も行う。